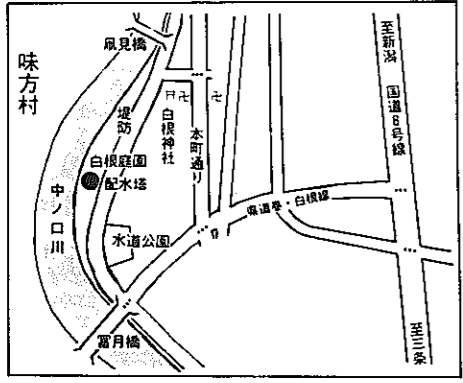




旧配水塔

昭和8年から40年まで水を供給し続けてきた旧配水塔。役目は終りましたが、昨年、補修工事が行われ、シンボルとして守られています。



語る人
相田 照さん
(日の出町・地方公務員・51歳)

いつも変わらぬ雄姿は白根のシンボル

十歳の夏に、縁故疎開で私は白根町の町にある母の実家に預けられました。それ以来今日まで、四十年間余りも白根にお世話になっていきます。

この間いろいろの事情で、住居が七回も変わりました。そんな中で、いつも変わらぬ姿を見せてくれたのは、諏訪木の堤防にある配水塔です。

私の思い出 昔のわが街

中学生のころだったと思うのですが、塔の中に入って階段を昇り、窓から回廊の所に出て白根の街を見下ろしたことがあります。それに、写生の題材には配水塔をメインにした風景が多かったようです。遠足で護摩堂山へ行った時は、山頂から遠くに見える塔に向かって仲間で呼びかけたりしました。最近気づいたのですが、配水塔は化粧直しをしたんですね。塔の周りは白色、屋根は青緑色に。白根の町並みも、時代の変化とともに少しずつ様変わりをしていくことがわかります。

配水塔は化粧でときどき表情を変えることがあっても、その雄姿は白根のシンボルにふさわしいと思います。



高井団地自治会

空き地の草刈りで美しく



人の背丈以上ものびた草を刈る団地の皆さん

高井団地自治会では、九月十四日、同団地野球部員の協力を得て、団地内の空き地の草刈りを行い「住環境が美化される」として付近の人から喜ばれています。

この日は、自治会役員と部員八人ほどで、九か所、八百二十五坪の土地の草を刈りましたが、中に

自治会長
金森勝美さん
(自営業・44歳)



土地の管理は、本来地主が行うのが当然です。しかし、中には遠方の人もいますので、団地の環境美化とイメージアップのためには、今のところこの方法しかないと思います。今は依頼されたところだけ行っていますが、依頼されないところをどうするか今後の課題です。宅地管理の刺激剤にでもなればいい。

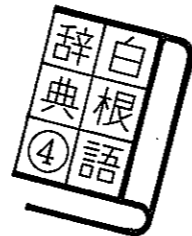
「遠い地主の依頼を受けて」

は人の背丈より高い草や、空きカンなどが投げ捨てられているところもあり、蛇や害虫の巣にならないうのが不思議なくらいです。

草刈り機は自分のもの、借りてきたものいろいろですが、刈る場所が離れていることや、草が歯に巻き付いたり小雨が降ったりで、作業はなかなかかどりません。しかし、今まで各種行事で培ってきた「協力」の精神でお互いには完了しました。

草刈りをした野球部員は「今年で二年目です。今回は二十九人の地主に連絡したところ、九人から依頼がありました。草が隣の家や道路まで伸びて迷惑しています。荒れたところには物を投げ捨てやすいのがゴミもけっこうありました」と話していました。

この草刈りは、不在地主と連絡を取り、依頼により費用の応分の負担を条件に実施したものです。盛夏の八月三日には、自治会結成十周年記念式典を行い、終了後三回目の祭りも実施し、団地の和を改めて温めました。



- おおめにおうた 大変なめに遭った
- おつか 母
- おた 新飯田地方
- かか 母
- かかさ 茨曾根・白根・白井地方
- かさあ 白根・白井・大郷地方
- た 新飯田・庄瀬・白根・白井・鷺巻地方
- おが 僕。根岸地方
- おれ 全地域
- おこわ 赤飯
- おじ 弟、二・三男
- おじごんぼ 全地域
- おせえ 遅い。新飯田地方
- おせ 全地域
- おちや 幼児が子守の女性を呼ぶときに使う。白井地方
- あーちゃん 白根・白井・大郷地方
- あや 白井地方
- おつかし おもしろい
- おもしろい おもしろい
- おもしろい 全地域
- おつかないにおうた 大変なめに遭った
- おつかねえ 恐ろしい
- おつき 大きい
- おっこ まあ。新飯田地方
- おっこ 全地域
- おつと 大変なことをした、失敗した
- おつと 鷺巻地方
- おつゆ お汁
- おつと 父
- おつと 全地域
- おつと 新飯田・茨曾根・根・庄瀬・白井・鷺巻・根岸地方
- おつと 新飯田・茨曾根・庄瀬・白根・白井・鷺巻地方
- おとしよ 男の手伝い人
- わけえしよ
- おなご 女性。白根・大郷・鷺巻地方
- おなご 新飯田・庄瀬・茨曾根・小林地方
- おになんご おにごっこ
- おば 妹
- おばんです 夜のあいさつ。白井・大郷地方
- おばんなりました 全地域
- こんばんは 白根・大郷・根岸地方

昭和四十三年、故福島自治民(当時)市教育委員会 社会教育(育主事)編集「しろねのいごば」から



今年一年生



写真と文とは関係ありません

「せんせい、わたし、しょうらいせいじかか おいしやさんになりたい おもてるの。それに、べんごしも わるくないわね」と、話しかけてくる一年生がいます。

「キヤリヤー フォークリフト シティカー テレビ中けい車」と、車の種類をよく知っている子がいます。

「せんせい、ファミコンの たかはしめいじんの きろく、あれは、じつは つくられたものだったんだよ」と、担任が知らない世界の話題が、子供たちの間でふくらんでいきます。

夏休みに、二、一四〇頁の平ヶ岳に、自分の寝具を背負って登った女の子がいます。虫博士がいます。ファッション通もいます。

本質的には以前の一年生と変わってはいませんが、「これが今の一年生なんだな」と、驚かされることがあります。新しい情報の波にもまれるせいもあるでしょうし、また、若いお父さんの、子育てに対する考え方の変化によるものもあるでしょう。

四・二・一 症候群ということ が言われています。祖父母四人、親二人の愛情が一人の子供に注がれるので、自立心が育ちにくく、ということのようですが、今の一年生を見る限りでは、マインスマス面よりもプラス面が多く出ているようです。過干渉にならないうえに、両親が、それぞれの役割を果たすようにすればよいのではないのでしょうか。

(白根小学校にお願いしました)